

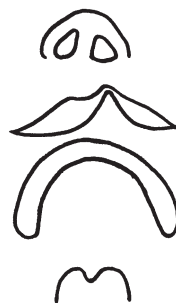
2. 口唇裂・顎裂・口蓋裂ってどんな病気なの？

- ・口唇裂とはくちびる（口唇）に裂があるものをいう
- ・顎裂とは歯茎（歯槽）に裂があるものをいう
- ・口蓋裂とは上あご（口蓋）に裂があるものをいう

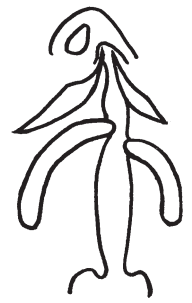
口唇裂・顎裂・口蓋裂とは、くちびる（口唇）から歯茎（歯槽）、上あご（口蓋）までに裂が見られるものをいいます。具体的には、口唇裂とはくちびる（口唇）に裂があるもの、顎裂とは歯茎（歯槽）に裂があるもの、口蓋裂とは上あごの奥の方（口蓋）に裂があるものを指します。全体を総称して「口唇裂口蓋裂」と呼びます。裂には、左側のもの、右側のもの、両側のもの、などがあります。裂の程度には、裂がすじのようになっているもの、裂がくちびるの半分までのもの、裂が大きく口の中や鼻の中が覗（のぞ）けるようになっていているもの、など様々です。そして部位によって程度も様々で、色々な表現型の組み合わせが見られます（図2）。

口唇裂口蓋裂は、身体の他の部分に重い疾患があり、その合併症として現れることもあります。多くの場合は口唇裂や口蓋裂のみで、知能や身体の発育に異常を伴うことは、ほとんどありません。ヒトのくちびる（口唇）と上あご（口蓋）は、母親のお腹の中で顔の形が作り上げられるときに、額から鼻の部分の出っ張り（前頭突起）と、左右2つの耳の部分の出っ張り（上顎突起）が発育して、この3つの出っ張り（突起）が顔の真ん中でくっついて作られます。くちびると上あごは受精してから4～12週までに作られますが、裂はその発育が何らかの原因で停止したために口唇裂口蓋裂が起こります。従って、一度出来上がったくちびるや上あごが離れて生ずるのではなく、裂が見える部分がうまくくっつくことができなかつた状態なのです。

口唇裂口蓋裂は、顔のほぼ真ん中に位置し、見てすぐに分かる形態の異常なので、本人を初めとして関係者の精神的負担の大きい疾患と言えます。機能的にくちびるは、ミルク、食事を摂るほかに“話すこと（構音）”や“表情”を表す働きもあります。歯茎は“歯の発育”に関係があります。また、口蓋は“言葉を作る（構音）”大切な働きの他に口で“吹いたり吸ったり”する動作を行うのに欠かせない働きをする部分でもあります。従って僅かに裂がある状態の口蓋裂でも手術が必要となります。上あごの発育は、上あごの骨の一部が欠損していることと、裂を閉じる手術をした場合の手術操作の影響によって、下あごの発育より悪くなる場合があります。上と下の歯の噛み合わせも、上と下のあごの発育に差を生じることや、裂がある部分の歯の位置や本数に異常があることもありますので、多くの場合、矯正歯科治療が行われます。虫歯を作らないこと、そして口の中を清潔に保つ習慣をつけることが大切です。



左不完全口唇裂



左完全唇顎口蓋裂

図2 口唇裂口蓋裂の代表例